

「翻訳聖書を通して語る神」— なぜ聖書は翻訳されなければならないのか —

日本ウィクリフ聖書翻訳協会 総主事 松丸 嘉也

「聖書翻訳の日」という日があるのをご存じでしょうか？毎年9月30日が、その日です。その日は、ヘブル語やギリシャ語からラテン語に聖書全巻を初めて翻訳した聖ヒエロニモ（ヒエロニムス）を記念する日とされています。この翻訳聖書がラテン語聖書の決定版とされる「ブルガタ（ウルガタ）訳」です。1966年、現在の世界ウィクリフ同盟の創設者であるキャメロン・タウンゼントが提案したところ、米国上院議会で決議され、同年9月30日、『聖書翻訳の日』が制定されました。

昨年の9月30日には、カトリック教皇フランシスコによって、典礼暦に「神のみことばの主日」が制定されました。そして今年も、教皇が、聖ヒエロニムスが天に召されて1600年を記念すると共に聖書への愛へと人々を招く書簡を発表されたというニュースがありました。教皇のメッセージは、「全てのキリスト者が聖書を開き、神様の叡智（愛—松丸）と希望といのちをくみ取ることができるように」「宣教活動としての聖書翻訳の重要性」を指摘しています。

スモール（小）グループによる聖書の学びを考えるにあたり、「翻訳聖書を通して語る神」という観点から今日の学びを始めましょう。

1. **言葉を用いる神**：神さまは、その本質から言葉（言葉の持つ、人を動かす力）を非常に大切にしておられるということができないのでしょうか。

・旧約時代は、神ご自身・預言者を通して、そして新約時代以降、聖霊の働かれる時代としての現代に至るまで聖書（の言葉）を通して語っています。

・神様は、それぞれの時代で、その人が理解できる言葉で語ってこられたということにも注目したいと思います。

（例）アッカド語（アブラム）、アッカド語アラビア方言（モーセ）、ヘブライ語（ダビデ）

七十人訳ギリシャ語旧約聖書、

アラム語（イエス・キリスト）、コイナー・ギリシャ語（パウロ/新約聖書）

※『聖書と現代 第53回神学セミナー』関西学院大学神学部、2020 参照。

→ 聖書は Translatability（トランスレータビリティ：翻訳可能性）を持つ。キリストの福音は翻訳可能性を最大限に生かすことが特徴であると言えるでしょう。そしてそれは、私たち人間の持つ理解の妨げである「文化」と「言葉」を乗り越えて福音を伝える最善の方法として神様が用いておられるのではないのでしょうか。

・初めにことば（言）があった。ことば（言）は神とともにあった。ことば（言）は神であった。

（ヨハネ 1：1-2）

・ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。（言は肉となって、私たち間に宿った。）（同 14）

神のことば—イエス・キリスト

2. **聖書を通して語る神**：神様は、福音・救いのメッセージを伝達するために「文字（サイン）」

化・「言語」化という方法を取られたのだと言えるでしょう。

・「聖書は神のことば」－というのは、そのような側面からも捉えることができるのではないのでしょうか？

(Ⅱテモテ3:15-17 がヒントになると思います。)

・15 聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。

16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

3. **母語を用いて語る神**: 全ての時代において、全ての人に、世界中の人に、救いのメッセージが届けられるために、神様はそれぞれの母語を大切にし、それらを用いておられるのではないのでしょうか？このことは、次の3つの聖書箇所を取り上げることによって私たちのそれぞれが考えて行きたいと思えます。

・『あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。(すべての民を弟子にしなさい。)]

(マタイ 28:19)

・『全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。』

(マルコ 16:15)

・すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。

(彼らはあらゆる国民、部族、民族、言葉の違う民から成り、…)

(黙示録 7:9)

ここで改めて「言葉」について整理してみましょう。

言葉:

・人の発する音声などのまとまりで、その社会に認められた意味を持っているもの。感情や思想が、音声や文字などによって表現されたもの。言語。／意味。理性。(人格を表す)

① 私たちは言葉を介して理解する － 神様はこれを用いておられる

理解のレベル・知的 (表面的な“知識”としての理解)

・情緒的 (感動・共感)

・霊的 (最も深いレベルで神を知り、人格レベルでの理解) 救い、神との交わり

→ 救い－新生－変革 へとつながる。

② 言葉の役割 － 伝える、共有する、 コミュニケーション

私たちは「言葉」(つまり私たちの母語)を用いて、聖書から受けた恵みを分かち合うことによって、さらにその祝福を深めることができます。そしてそれは、私自身の霊的成長へとつながっていくことを確信します。

『翻訳聖書を通して語る神』を思い巡らせるために、ウィクリフの宣教師が実際に聖書を翻訳する中で経験したこと(証)をお分かちさせていただきたいと思えます。南アジアのある言語で「神」を表す言葉が見つかった時のエピソードを紹介させていただきたいと思えます。

翻訳宣教師が、その言語を話す人々に「神さま」を知っているか、またその言葉があるかと尋ねても、長い間何も答えてくれませんでした。ある時、まだ小さかった息子さんを連れて村人の住む所に行き、段々畑で村の人と話していたところ、ヨチヨチと歩き出した息子さんが誤って畑の端から3、4メートル下に転落してしまいました。慌てて下を見ると、そこには尖った岩がありました。が、息子さんはそれにはぶつからず、柔らかい土の上に落ち、大きな怪我もせず、驚いて泣いていたそうです。その宣教師は急いで走って行って息子さんを抱き上げて、村の人に「怪我はしていないようです。」と言うと、その村人は（当然その人たちの言語で）「(神様が見守ってくれたのだよ。）」と言いました。

その時に「神様」を表現するために使った単語が、「唯一の神」に近い語だと分かったのです！

この事実を確かめるために、その後多くの人々に尋ねると、それが間違いではないことが分かり、更に、この単語はまれにしか使われないほど尊い単語であることを知り、驚き、聖書に用いることが出来そうだと分かりました。最初に翻訳していたマルコ福音書に使い、村の人に読んでもらい、その単語で良いことが分かり、この訳語を決定したということです。

この宣教師夫妻は、子どもさんが守られたことと「神」という単語をその言語で発見したことを心から喜び、神さまに感謝をささげました。

また、ある別の翻訳宣教師から、15年の翻訳作業を通して、

〈「主」、「赦し」がようやく訳語が見つかって来たようです。感謝します。〉

という報告を受けるということがありました。

最後に、ウィクリフの働きを通して励まされ、教えられていることをお分かちさせていただきます。

・(聖書の献呈式にて、母語に翻訳された聖書を手にした人の言葉) から

「今日、私たちの村にもイエス様が(ついに) やって来た。」

「神様は我々部族の人間になってくださった(我々部族の言葉で語ってくださるようになった)。」

参考資料【世界の聖書翻訳の現状】

■聖書翻訳宣教の統計

(世界ウィクリフ同盟 発表 2020年10月)

- ・世界の人口 : 約78億人
- ・世界の言語数 : 約7,360言語
- ・聖書のある言語数 : 合計 3,415言語
  - 聖書全巻がある - 704言語 (全言語数の10%未満)
  - 新約聖書はある - 1,551言語
  - 分冊・聖書物語はある - 1,160言語
- ・聖書翻訳プロジェクトが進行中の言語数 2,731言語 (167ヶ国)
- ・聖書翻訳プロジェクトを始める必要があると思われる言語数 : 2,014言語 (日本手話訳聖書を含む284の手話)
- ・6656言語を話す15億の人々 (世界人口の五分之一) には、第一言語による旧新約聖書全巻が未だ訳されていません。

